



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



新任のご挨拶

口腔腫瘍外科学部門 嶋根俊和

平成26年7月8日付けで口腔外科学講座口腔腫瘍外科部門の教授(員外)に就任しました。これまでは昭和大学藤が丘病院耳鼻咽喉科の診療科長として頭頸部癌の治療を行ってまいりましたが、今回医学部から歯学部に移り教育、診療、研究に携わることになりました。

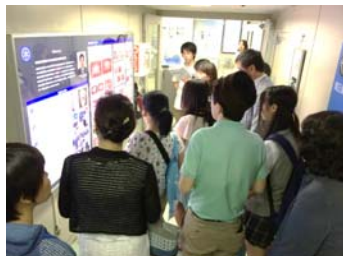


全国的に見ても医科と歯科の連携がうまく取れている大学は少ないと考えられます。特に口腔腫瘍は耳鼻咽喉科と口腔外科と領域が重なり同じ大学でも治療法が異なる場合もあります。今回、医科と歯科の合同チームで診療することで口腔外科と耳鼻咽喉科の知識、技術によってワンランク上の医療を提供し、昭和大学の考えであるチーム医療の精神をさらに発展させていきたいと考えています。そして耳鼻咽喉科医との連携により、頸部手術、全身管理、合併症出現時への対応が安全にそして速やかに行え、口腔腫瘍外科の教室員にも十分な頸部の解剖、全身の管理の研修ができ今後の教室の発展にもつながるものと考えています。そしてこの新たな合同チームによる医療を近隣地域だけではなく、全国に広めて今後の口腔腫瘍、頭頸部腫瘍治療の発展に役立てていきたいと考えていますのでどうぞよろしくお願い致します。

歯学部オープンキャンパスが開催されました

入試常任委員 井上美津子

平成26年度の歯学部オープンキャンパスは、7月26日(土)と8月16日(土)の午後、本学洗足キャンパス(歯科病院)において開催されました。それぞれ、75組・133名、89組・169名の参加がありました。



両日とも、全体説明会として「富士吉田での学生生活」、「平成27年度歯学部入学試験について」の説明の後、模擬講義や施設見学、体験実習が行われ、希望者には個別相談の場が提供されました。

7月26日には、口腔リハビリテーション医学部門の高橋教授により「命を守る摂食嚥下リハビリテーシ

ョン」と題する模擬講義と、口腔リハビリテーション科外来において参加者でペアを組んでの聴診器で互いの嚥下音を聞く体験実習、そして歯科矯正科とインプラント歯科の施設見学・説明が行われました。

8月16日には、小児成育歯科学講座が模擬講義と体験実習を担当し、「むし歯予防の最近の考え方～ライフステージを通じた歯・口の健康づくり～」と題した模擬講義と、小児歯科外来でのマネキンを用いたシーラント実習が行われ、施設見学は美容歯科、歯内治療科、高齢者歯科の3科で実施されました。

入試の説明には受験生・保護者ともども皆熱心に耳を傾け、また体験実習には新たな体験に受験生は目を輝かせていました。個別相談も多くの方々が希望され、両日のオープンキャンパスとも大変好評のうちに終了することができました。

久光・岡野両先生日本歯科医学会会長賞受賞祝賀会が開催されました

歯科放射線医学部門 佐野 司

平成26年6月28日に久光久・岡野友宏両先生日本歯科医学会会長賞受賞祝賀会が、ホテルニューオータニにて開催されました。日本歯科医学会会長賞は、日本歯科医学会最高の顕彰です。久光名誉教授が教育部門で、岡野名誉教授が研究部門でのダブル受賞となり、本学にとりましてこのうえない名誉となりました。祝賀会は真鍋教授の開会の辞に始まり、続いて東京医科歯科大学理事、副学長の田上順次先生、日本歯科審美学会 前会長の佐藤 亨 先生、宮崎歯学部長、飯島同窓会長からご祝辞をいただきました。その後、榎歯科病院長の乾杯があり祝宴となりました。余興として演奏された唄、三味線、囃子、笛という日本伝統の邦楽が会を一層引き立てておりました。高橋浩二教授のお祝いの力強いエールの後に久光・岡野両先生より謝辞をいただきました。不肖佐野の閉会の辞で、終始和やかで肩ひじ張らない楽しい会はお開きとなりました。御出席いただきました皆様には発起人として心より御礼申し上げます。



x

歯学教育者ワークショップ(アドバンス) 開催される

歯学教育学 片岡 竜太

第19回昭和大学歯学教育者のためのアドバンスワークショップが、8月1日(金)、2日(土)に神奈川県葉山町 IPC 生産性国際交流センターで開催されました。医学部、薬学部と同時開催で、参加者は4大学交流校、学事部などを含めて57名(歯学部18名)、タスクは20名(歯学部5名)でした。テーマは「平成27年度敷地内全面禁煙における課題と対策」(4学部)「ポートフォリオの評価について」「医学研究科の教育研究の目的について」(M)、「臨床実習における電子ポートフォリオの活用について」「超高齢社会に対応する臨床実習内容について」(D)、「薬剤師養成のための適切な態度評価の検討」「基礎薬学を応用できる薬剤師養成カリキュラムの検討」(P)でした。

ポートフォリオを活用したコンピテンシーの評価について医学、歯学、薬学で討論されました。昨年の本ワークショップで「昭和大学のコンピテンシー」を制定し、「学生に何を教えたか」ではなく、「学生が何をできるようになったか」を評価し、教育の質を保証しようという考え方が周知されました。「何ができるようになったか」は必ずしも国家試験で評価されている「知識」、OSCE や i-OSCA で評価されている「技能」だけではなく、医療人としての「態度」がしっかり身についたかどうか問われます。東京慈恵会医科大学 福島統教授には「コンピテンシーの評価としての「態度評価」について」というタイトルで態度教育、評価の重要性を講演していただきました。患者さんに協力していただき、臨床実習を行うわけですから、実習を通じて「医療人としてあるべき姿」を考えられるようにポートフォリオを活用して態度を含めた指導を行うというコンセンサスが、学部を超えた全体討議で得られました。これは教員が生涯「医療人としてあるべき姿」を考え続けながら向上をしていく学生を育成するために非常に重要な内容だと思いました。現在長谷川先生を中心に臨床実習における電子ポートフォリオの活用が推進されています。「学んだ内容」、「できるようになったこと」の「見える化」を図り、生涯学び続ける学生を育てるために、電子ポートフォリオの活用を学部としてさらに推進していきたいと思えます。

歯学部では平成24年度から、文科省大学間連携共同教育推進事業で「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成プログラム」(5年間)に北海道医療大、岩手医大、9歯科医師会と取り組んでいます。世界に先駆けて「超高齢社会」になると、歯科を受診する患者の中で「基礎疾患を有する患者」や「常用薬を服用している患者」の比率が増えます。高齢患者にも「安心安全な歯科医療を提供する」ために、全身状態を把握した上で、安全な歯科医療ができる歯科医師を養成しなければなりません。このために必要な臨床実習の内容を検討しました。これ

は歯科診療所に通院できない患者さんの在宅歯科医療を行う際にも、非常に重要になります。医学部、薬学部にも協力をしていただき、来年の臨床実習の充実を図るために、飯島先生を中心として、今年度導入されたシミュレーターも活用した臨床実習の概要が決まりました。

その他、平成27年度から実施される敷地内全面禁煙に対する対策も具体的に決まりました。また基礎医学・歯学・薬学をいかに臨床で応用できる学生を育てるかというテーマでも活発な討議がなされ、薬学部から具体的な提案がなされました。今後の発展が大いに期待されます。

学部を超えた活発な討議の後、学事部も含め90名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。懇親会場で参加者が4学部入り乱れて和気藹々と話している姿は昭和大学のますますの発展を予感させるものでした。

今回のワークショップでは、態度を含めたコンピテンシーの評価を意識したポートフォリオの活用が3学部で提案され、臨床実習の充実と同時に進めていくことになりました。また社会が歯科医療に求めるニーズに対応した教育を医学、薬学といかに連携して行うか具体的な実習内容の概要が決まりました。

お忙しい中参加していただいた参加者の先生方とタスクフォースを務めていただいた宮崎学部長、井上教育委員長、飯島先生、長谷川先生、および運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝します。



認定医・専門医取得広報委員長 中村雅典

安原理佳：日本病理学会口腔病理専門医

承認・採用

広報委員長 中村雅典

小原明香：歯科麻酔科学部門・助教採用

受賞

広報委員長 中村雅典

・第27回日本顎関節学会総会・学術大会 最優秀ポスター発表賞(石橋賞)

小野康寛、船登雅彦、渡邊友希、馬場一美



歯学教育者ワークショップ(アドバンス)に参加して

北海道医療大学 顎顔面口腔外科学分野
永易 裕樹



今回、昭和大学における医学・歯学・薬学教育者のためのワークショップに北海道医療大学より参加する機会をいただきました。「臨床実習における電子ポートフォリオの活用について-臨床実習の評価を含めた活用-」をテーマとして、討議に加わりました。昭和大学歯学部臨床実習におけるチェックリスト型電子ポートフォリオシステムは、本年4月から導入、運用されているとのことでした。チェックリスト型電子ポートフォリオシステムは、学生のこれまでの臨床実習経験が把握でき、レポートを見ながらフィードバックができるという利点があり、完成度の高いものでした。運用上、診療前のチェックや診療時間内にフィードバックができないという時間的問題、また実習項目の進捗状況の集計機能の付与、評価基準・ルーブリック作製の必要性に関して活発に討議がされました。今後、この電子ポートフォリオシステムの運用における診療前後の時間的制約の問題、集計、評価システムの付与・変更は全て短期間に解決可能と考えられました。また本システムの効率的実行により、学生、教員間に共通の情報が共有され、より高い教育効果が得られると期待されました。またワークショップが学部横断的に行われることは学部間連携、チーム医療向上にも繋がるものと認識させていただきました。

昭和大学教育者のためのワークショップ(アドバンス)に参加しました

歯科放射線医学部門 佐野 司

昭和大学教育者のためのワークショップが8月1日(金)2日(土)の計2日間、葉山IPC生産性国際交流センターで開催されました。昨年に引き続き医学教育者、歯学教育者、薬学教育者のためのワークショップとして、全学部、他学からの60名の参加者で開催されました。今回の歯学部のテーマは「臨床実習における電子ポートフォリオ



の活用について -臨床実習の評価を含めた活用-」と「超高齢社会で活躍する歯科医師を養成するための臨床実習内容について」でした。私は「臨床実習における電子ポートフォリオの活用について」に参加しましたが、医学部のテーマの「ポートフォリオの評価について」の報告とプロダクトを拝見でき、電子ポートフォリオの今後の活用の大きな指標となりました。特にポートフォリオを形成的評価だけでなく総括的評価にも利用される予定であるとのことはお話今後の歯学部の臨床実習の在り方にも一石を投じるものと思われました。長谷川教授のご準備、保存科、総合診療科での事前の試用のおかげをもちまして、今後の方針がほぼ決まったような感を持ちました。これより、実際の運用に向けての準備が始まりますが、歯学部全体で共有化を図り、本学独自のポートフォリオシステムの構築をしていただければと思っております。

昭和大学教育者のためのワークショップ(ビギナー)に参加しました

歯科補綴学講座 安部友佳



7月29～31日に教育者のためのワークショップが、歯学部だけではなく、医学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部、看護専門学校の教育に携わる先生方34名が参加して開催されました。

3日間、どのワーキンググループでも熱いディスカッションがなされて、カリキュラムと目標・方略・評価に基づいたプロダクトを作成していき、また、教育における問題点とその対応を検討しました。教育というテーマを通して、本学の特色であるチーム医療、学部連携を中心に、本学のアイデンティティを考える素晴らしいワークショップであったと思います。また、私としては、他の学部の先生方とお話する機会はこれまで殆どありませんでしたので、他学部の様々な話をお伺いするのは大変興味深く、教育について考える貴重な機会となりました。教育の現場は様々なシチュエーションがありますが、今回学んだことを応用しながら活かせるように努めて参りたいと思います。

今回は全学部が参加しての6回目の開催、初回からは20回目の節目で修了者693名を数えるということで、本学での学部連携が学部間交流を通じて進んでいくことを期待しております。

昭和大学教育者のためのワークショップ(ビギナー)に参加しました

口腔病理学部門 田中準一

第6回昭和大学教育者のためのワークショップが、葉山のIPC生産性国際交流センターで7月29日より3日間実施されました。天候にも恵まれた中で4学部から33名の教職員が参加しました。

昭和大学の教育に関する問題点の抽出からカリキュラムの組み立て方まで、教育に関する講義およびグループワークが3日間充実の内容で執り行われました。グループワークでは学部の垣根なく白熱したディスカッションでカリキュラム作製に没頭し、夜には懇親会が開かれ普段は交流の機会がない先生方との情報交換という面でも貴重な体験となりました。また、今回の昭和大学教育者のためのワークショップは、



その前身である医学教育者のためのワークショップから数えると節目の第20回にあたり、最終日には第1回より運営にご協力いただいた日本赤十字秋田看護大学の畑尾正彦先生への感謝状の贈呈がありました。なお、3日間のビギナーズコースの後には8月1日より2日間のアドバンスコースが開催されました。

最後になりましたがワークショップ実施にあたりご尽力いただいたタスクの先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

e-learning 教材作成セミナーに参加しました

口腔解剖学講座 柳澤伸彰

平成26年3月26日(水)に第1回、6月25日(水)に第2回 e-learning教材作成セミナー



が旗の台1号館において開催され、大学間連携共同教育を推進している昭和大学歯学部および岩手医科大学と北海道医療大学から参加がありました。金沢電子出版株式会社の佐藤伸平先生を講師にお招きして、第1回はe-learningの導入と利用の手引きについて、第2回はe-learning教材の作成とe-learningを活用した授業の実施方法についてご講演いただき、PCを使用しながら体験実習を行いました。今回は、5年次の「全身疾患と口腔内科」で使用しているものを用い、問題作成および編集の仕方を学び、

さらに授業で活用する方法を学んだことで、e-learningの必要性を改めて痛感しました。e-learningを活用する事で学生は一生涯学び続ける事を学び、主体的に考える力を持つことができるので、今後の学生教育に取り入れたいと思いました。また、他大学と連携し共同教育する事は、今後の歯科医師を養成するうえで非常に大切であると感じました。時間的にかなりタイトでありましたが、参加者は皆非常に熱心に取り組んでおり、とても有意義なセミナーとなりました。

医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナーに参加しました

口腔解剖学講座 野中直子

8月2日・3日、日本歯科医学教育学会が主催する「第8回医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー」に参加しました。セミナーの趣旨は、医療コミュニケーションの教育技法の普及・啓発やそれに携わる教員の教育向上を図る事です。セミナーは4人の先生方によるレクチャーと7回のセッションで構成されていま

した。セッションは、グループに分かれロールプレイやシナリオ作成を



行い、私達グループのシナリオ課題は、歯学部1年生を想定した「初診患者さんへの付き添い実習での出来事」でした。シナリオ作成後は名古屋 SP 研究会の方がグループに参加し、シナリオの疑問点を挙げながら検討・修正し完成版を作成しました。私のグループは、九大の高橋一郎教授をはじめ、九歯大、長崎大、鹿大、広大、日大、日歯大の先生方の8名でした。このセミナーに参加し医療コミュニケーションの大切さ難しさを学び、また他大学の先生方と過ごした時間は貴重な経験となりました。今回のセミナーで得た知識を取り入れ、今後の医療コミュニケーション教育に貢献していきたいと考えています。

行事予定

広報委員長 中村雅典

9月20日(土):歯学部入試説明会

9月25日(木):大学院秋季修了式

9月27日(土):富士吉田父兄会・富士吉田教育部会

編集後記

歯科放射線医学部門 松田幸子

暑い中、原稿を執筆して頂いた皆様には心より感謝申し上げます。猛暑が続いていますが・・・と、書いたところで、急に涼しくなってきました。寒暖の差が激しいですが、皆様ご自愛くださいませ。